

京都大学薬学部 SGD 演習レポート
第7回・第8回前半 薬学研究基礎

授業実施日：2018年5月23日（水）4限・5限、30日（水）4限
担当教員：竹本佳司教授・掛谷秀昭教授・中津亨准教授・矢野義明講師
対象学生：薬学部1回生83名（4クラス）
場所：医薬系総合研究棟2階 講義室A・C、薬学部本館22・23

授業の目標

前回は一般的なトピックでディベートを行いました。今回は、より科学的な内容についてディベートができるようになることが目的として設定されました。前回と異なり、準備に2コマの時間が当てられ、1週間後に1コマを使ってディベートが行われました。

授業の場面

1. ディベートの方法の復習（5月23日）

まず、前回学習したディベートの方法に関して、簡単な振り返りを行いました。ディベートにおいて、有効な尋問や反駁を行うために、3つのウォームアップが、グループワーク形式で行われました。



- ① 議論のかみ合わない2つの主張の裏側にある「隠れた前提」の違いを考えるワーク
- ② ある現象を説明する仮説があるときに「代替仮説」を立てるワーク
- ③ ある主張の根拠とされているものを、本当にそれが根拠として適切かどうかという観点から、批判的に検討するワーク

こうした3つの構成要素に注目して尋問や反駁を行うことで、相互理解を深め、よりよい解決策を見出しうることが確認されました。

2. ディベートの準備（5月23日）

ディベートの準備として、パソコンやスマートフォンを用いながら、自分たちの立場を支持できる根拠を集める作業が行われました。テーマは教室ごとに異なり、「動物実験」「喫煙」などのテーマで、賛成の立場と反対の立場がランダム



に割り振られ、ディベートのための準備をしました。授業時間内に準備が終わらなかったグループは、授業外学習をするように指示されました。

3. ディベートの本番（5月30日）

ここでは、一つの教室のディベートを紹介します。テーマは、「医学上の利益や生体機構の解明のために、動物実験を行うことは、研究者に認められた正当な権利である。」という論題に対して、賛成か反対か、です。立論、尋問、反駁、総括の時間がとられ、ディベートが行われ



れました。主な論点は、以下の通りでした。

<賛成派>

- 動物実験は、人間に対しての薬効を確認しておく上で有益
- 代替法としてコンピュータシミュレーションやバイオプリンティングがあるが、いずれも動物実験と比較して、不十分な方法ではない
- 動物実験を行わなかったことにより、人間に対しての深刻な被害が出た例もある

<反対派>

- 動物の権利を侵害している
- 動物実験により安全と認められた薬が、人体に対しては悪影響を及ぼした例がある

印象に残った点

時間外学習も含めてしっかりと準備をしていたためか、今回の専門的な内容についてのディベートでは、どのグループも多くの情報を収集し、かなり説得力

のある立論を行っていました。また、尋問においても、相手が突かれたら困る点をしっかりと攻め、大変白熱したディベートとなりました。欲を言えば、総括が議論全体をふまえて主張を押し出すものになっていれば、さらにディベートのクオリティが上がったのではないかと思います。

記事作成者：高等教育研究開発推進センター研究員 長沼祥太郎

監修：高等教育研究開発推進センター教授 松下佳代